

愛郷の至情に燃ゆる道路改築

海野彌之助

○浦川の街 天龍下れば飛沫にぬれる、と謳はれる天下の絶勝地天龍下りの上陸地であり、下天龍下りの乗船地である静岡縣磐田郡浦川町は同縣西部遠江の北端で隣縣愛知に接し、面積二千三百三十六町に互り地勢上十三區の自治區を構成し、戸數八百有餘戸、人口四千五百人を擁し周圍は鬱蒼たる大樹林が渾然として繞らし紺碧の水を湛へたる大天龍と其の支流大千瀨川の合流點に展開された幽邃明眉な山の街である。

○交通機關 最近三信鐵道の全通に依つて惠まれてゐるが道路は依然として開發に到らず愛知縣の新城に通ずる府縣道中部——新城線が唯一の機關で縣内濱松地方に達する路

線としては二俣町より天龍川沿を通ずる二俣——水窪線であるが、久根鑛山で名のある同郡山香村西渡で分岐して中部中央天龍停車場線を経て、中部——新城線に結ばるも、同線は西渡——佐久間村中部間約四杆の未改良區域があり遠く西渡から二俣——水窪線によつて北上し周智郡城西村から同線を分岐する水窪——中部線を経るにあらざればならないのである、されど此の路線を利用するときには迂廻も著敷剩へ道路状態も漸く縣道に編入したばかりの新路線で屈曲甚敷勾配も急な箇所が多く到底物資の輸送に適せず勢ひ西渡——浦川間は小區間乍ら天龍の舟便によるの外途なく東部方面への交通は到つて不便の状態に置かれたのであ

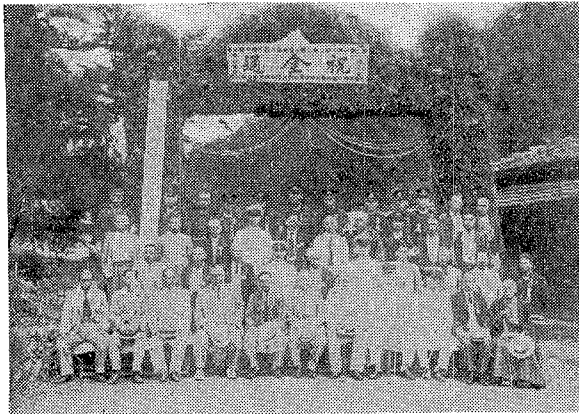
る。尙同町には以上の路線の外に府縣道二俣——飯田線を
抱えてゐる、此の路線は二俣町より下阿多古村、上阿多古

絡し亦北遠地方と隣縣愛知との連絡を圖る計劃の下に、昭
和八年度に於て匡救事業として直營工事を以て執行し一部

村、熊村を経て浦川町に通じ更に南
信、飯田市に達するので其の總延長
四三、四三六米實延長四一、九六三
米を有して事實上北遠、東三、南信
を結ぶ最短距離なるも其の一部浦川
町地内三、七五四米が未改良に屬す
るので利用されず、斯した交通状態
に一般旅客、物資の輸送は遠く豊橋
方面を大迂廻するの外なく、地方産
業の伸展上其の障碍甚大なるものあ
る状態であつた。

○改良實施 縣は斯る状態に鑑み本
路線の未改良部分の改良實施計劃を

立つて之れを全通せしめ、當時國鐵の企圖による二川——
二俣間及二俣——掛川間の鐵道布設と相俟つて、之れに連



靜岡縣磐田郡浦川町新縣道
二俣飯田線開通式アーテ

の改良を施し尙繼續事業として施行
せんとせしも次年度の匡救事業費割
當尠なかりし爲遂に施行難に陥り其
の儘中絶し越えて昭和十一、二兩年
度に於て未改良區間中先以て難工事
と目さる部分延長三四九・五二米を
再び實施し更に次年度に於て殘部を
一舉に改良し全通を期したるも、偶
々縣財政の都合で工事中にして中止
の已むなきに到つたのである。

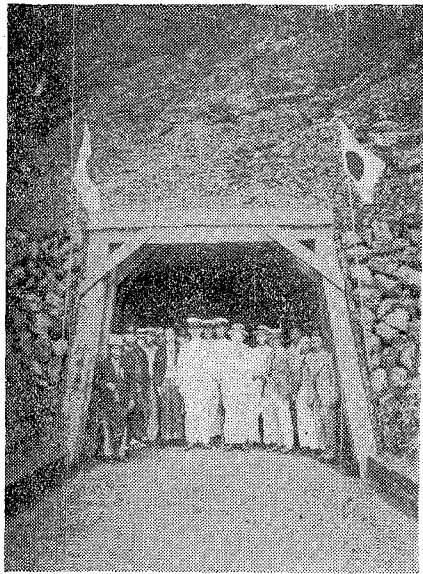
○團體の奮起 浦川町道路愛護會吉
澤支部長田高英作氏は現下の状態に
鑑み資源の開発上開鑿の急務なるこ

とを絶叫し克く支部員を鼓舞し一致團結し町當局及同會長
に諮り吉澤支部の名に於て未改良全區域の改築實施を具體

化し、工費一萬六千圓を計上し、之等工事費は悉く地元負擔とし、第一期、第二期工事に區分し實施計劃を樹立し、別項記載の通り昭和十二年四月着工、結核經營工を積むこと二ヶ年にして同十三年七月竣功し、本路線の全通を觀るに到れり殊に難工事と言は

て舉行縣官、縣議、其他多數の來賓列席の下に一同着席國歌を合唱し皇太神宮、宮城の遙拜、出征將兵の武運長久祈願の默禱を嚴肅に行はれ、田高支部長の式辭、工事の經過、決算報告、功勞者に對する感謝狀、記念品の贈呈を終り矢部町長の告辭、土木部長代理齋藤道路主事、大城保安課長其他來賓の祝辭も朗々と次て閉式の辭があつて祝賀會に移り盛大裡に終了し其れより記念の撮影を行つた。

れた大地野隧道改築工事も美事に完成し之れに依り多年の宿望は達せられ、沿線地方の開發生産の擴充に寄與する所極めて大なるものあるは勿論非常時局に際り亦重要な使命を齎らすに到りたるものにして、全く同會吉澤支部各員の公共的



靜岡縣磐田郡浦川町地内
磐田縣二飯田大線野地隧道

(寫眞は開通式記念撮影)

愛郷的精神の發露によるものにして其の美舉は縣當局を感激せしめたのである。(寫眞は大地野隧道)

道路の維持保全に邁進してゐるが、二俣——飯田線の開通を記念に八月一日午前六時總動員を指令し會員四百五十五

○開通式 同支部主催の下に七月三十一日吉澤小學校に於

名出動林會長總指揮の下に各支部長を督勵町内府縣道中部

○道路愛護 消防組を以て組

織する浦川町道路愛護會は一
致團結質實剛健の意氣に常時

——新城線外二線延長二十五軒に亙り十三班の作業部班に編成一齊的作業を斷行特に吉澤支部は開通の式典を控へ前日全線の修理と清掃を行ひ更に參加したが當日齋藤道路主事、永富濱松土木出張所長、海野道路書記等臨場全線を巡視し、大城保安課長一行も消防器械器具の設備檢閲と共に道路愛護作業狀況を視察し主事、所長は作業終了直前歸廳したが生憎作業直後に至り大降雨が襲來したるも各支部共降雨の爲能率をあげ得ざるも眞摯なる態度を以て一絲亂れず濡れ鼠となつて過般の水禍による路面の荒廢を修理し、側溝の浚渫、雜草の伐拂、崩土の取除作業を勤行し午前十一時現場を引上げ正午を期し、浦川小學校に集合之れに少年消防隊百五十名參加し、夏雨沛然たる校庭に整列會長の點檢を終り海野道路書記の挨拶あつて愛護作業を終了、引續き同會は消防組となつて大城保安課長臨場の下に演習を舉行される等同日は恰も道路愛護に關する諭告發布の日に當る等誠に意義ある催であつた。

○工事と美舉 愛郷の念に燃ゆる至情は遂に二俣——飯田

說 苑

線を美事全通せしめたが、茲に本路線改築の概要と共に地元民の貢獻による一端を擧げれば次の通りで本工事の完成に到る迄に如何に犠牲を拂つたかを之れに依つて窺はれるのである。

☒縣工事施行と地元負擔

施行年度 自大正十一年度 自昭和十一年度
至昭和七年度 至昭和十二年度

施行箇所 府縣道二俣飯田線 浦川町地内

施行延長 七、三三四米

幅 員 四・五米

工事費總額 金二十九萬二千二百圓

財源内譯

縣 費 金十八萬三千六百六十二圓

地元町負擔 金四萬一千四百六十六圓

地元川上區寄附 金三千六十二圓四十五錢

地元吉澤區民寄附 金六萬四千九圓五十五錢

吉澤區特志寄附者(略敬稱)

金二萬一千圓 田高喜太郎

金一萬三千圓	佐藤佐太郎	金二百五十圓	赤根高次郎
金五千三百圓	戸田宇市	金一百圓	大野盛之
金五千二百圓	内藤松太郎	金二百圓	森山幸太郎
金二千五百圓	近藤徳重	金一百七十五圓	大鷲善作
金一千二百五十圓	寺坂光人	金一百七十五圓	久保田重吉
金一千二百五十圓	富山治人	金一百五十圓	萬崎延一
金一千二百圓	久保田吉彌	金一百五十圓	大原留作
金一千圓	森田周藏	金一百五十圓	寺坂太重
金一千圓	大石貞次郎	金一百圓	山本鶴松
金八百圓	吉村麻五郎	同	伊藤信次郎
金五百圓	竹内幸吉	同	野代佐七
金四百圓	野寺松重	同	大竹由太郎
金三百五十圓	鹿間樂太郎	同	狹間文藏
金三百五十圓	保里長五郎	同	中津川長吉
金三百圓	赤根勇吉	同	伊堂辰藏
金三百圓	倉山清四郎	金六千九圓五十五錢	吉澤區民一同
金二百五十圓	萩野儀作		

以上の寄附金は自大正十一年度至昭和七年度の十二年

間に互り納付せしものなり。

☑️地元道路愛護團體工事施行

起業者 磐田郡浦川町道路愛護會吉澤支部

支部長 田 高 英 作

○第一期改築工事

施行箇所 磐田郡浦川町地内自 浦川字吉澤 至 大地野隧道北口

施行延長 三、七五四米

幅 員 三・六米

工費精算額 金一萬二千八百八十二圓九十二錢

工事着手 昭和十二年四月一日

工事竣功 昭和十二年八月三十日

執行方法 請 負

○第二期改築工事

施行箇所 磐田郡浦川町 熊村界大地野隧道

延 長 一九三米（隧道全延長）

施行延長 一三・六米（手堀支保工）

幅 員 二・六米

工費精算額 金三千七十四圓十錢

工事着手 昭和十二年九月二十六日

工事竣功 昭和十三年七月二十日

執行方法 請 負

以上二期間に互る工事費精算額は後記の通にして之れ

が財源は全額地元負擔とす。

財源内譯

金一萬五千九百五十七圓二錢 工事費精算額

負 擔

金五 千 圓 浦川町補助金

金一千二百四十六圓 熊村補助金

金九千六百四十八圓六十錢 地元吉澤支部員

金六十二圓四十二錢 雜 收 入

吉澤支部員特志寄附者（略敬稱）

金三千八百十三圓九十九錢 高橋新太郎

金一千八百五十一圓十一錢 田 高 英 作

金一千六十五圓五十錢 佐 藤 角 造

金九百二十五圓五十錢 内 藤 金 市

金六百十三圓 戸 田 勝 哉

金四百一圓	近藤功
金一百五十二圓	森田簡市
金百五十二圓	久保田利雄
金百十六圓	吉村正之
金百四圓	大平辰次郎
金九十五圓	鹿間順市
金八十九圓	野寺松重
金七十二圓	大石文七
金六十二圓	寺坂光人
同	富山治人
金二十七圓五十錢	倉山清四郎
金二十七圓	森山幸太郎
金二十圓	植村光晴
	以上

因みに本路線改築に絡み、昭和七年度農村振興土木事業として縣直營工事を以て、執行の際竣功期限切迫せるも各地一齊的に施行せる所謂匡救事業に著敷勞働者の拂底を來すに到り工事の進捗を圖ること能はざる状態に陥り、各地に人夫の募集に躍起となり大童となつて奔走中、圖らずも地元吉澤區田高英作氏は本工事の竣功容易ならざる状態に

奮然蹶起し「吾等の道路」を標榜に工事完成の應援を強調同町消防組第五部員及一般區民に呼びかけ、工事完成後援會を結成誠心誠意人夫供給に活躍、昭和八年一月六日より同年三月二十二日に到る間延人員二千九百九十五人の出役人夫を提供され、此の純真なる地元民の團結せる意氣と尊き汗の力に與つて漸く工事の竣功を遂ぐるに到つたのであるが、同後援會は出役により得たる勞働賃金の内金一百二十五圓三十錢を、時の滿洲派遣軍に慰問金として豊橋聯隊區司令部を通じ贖金する等全く地元民の崇高なる國民精神の發露によるものにして此至情ありて郷土開發の第一歩を踏出し、時代の進運に順應した、文化的理想郷建設をめざしたるものである。

抑も同町に於ける本道路の今日あるは本路線改良計劃以來歳を閱すること、十八星霜道路開鑿に専心克く地元區民と融和し物心共に貢獻せられたる、同町吉澤區田高喜太郎、佐藤佐太郎兩翁其の人であり茲に深甚なる敬意を表する次第である。(完)